

ボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法の説明書・同意書

大曲厚生医療センター 泌尿器科

【病名と病状について】

病名：過活動膀胱

これまで過活動膀胱の診断で内服薬による治療を行ってきましたが、十分な効果が得られておりません。現在の症状を改善するため、ボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法を行います。

【治療薬について】

ボツリヌス菌が作り出す A 型ボツリヌス毒素というタンパク質を有効成分とする薬です（ボツリヌス菌を注射するわけではありませんので感染する心配はありません）。この薬を膀胱の筋肉に投与することで、膀胱の異常な収縮を抑えることが出来ます。

【治療の内容】

- ☐ 下半身麻酔（腰椎麻酔）で行います。
- ☐ 尿道から内視鏡（膀胱鏡）を挿入し、細い注射針を用いて膀胱の筋肉にボツリヌス毒素を約 20 ヲ所に注入します。
- ☐ 治療時間は 10-20 分程度です。
- ☐ 治療当日から点滴を開始します。飲水と食事が十分にできると主治医が判断できた時点で終了となります。大抵の場合、治療翌日に点滴は終了します。
- ☐ 治療翌日より食事・歩行が可能です。
- ☐ 尿道のカテーテルは、血尿の程度をみて翌朝に抜去します。
- ☐ 排尿に問題が無いことが確認出来たら退院可能となります。
- ☐ 退院 1-2 週間後に外来受診していただき、尿検査や残尿測定などを行います。

【合併症】

I. 麻酔に関するもの

- ☐ 頭痛：腰椎麻酔後、数%の方に頭痛がみられることがあります。これはベッドから起き上がった時や体動時に起こりやすいため、術後数日は体の移動はゆっくり行って下さい。多くは一時的なもので、数日内に治まります。
- ☐ 非常に稀ですが、注射部位に感染、血腫などがみられることがあります。

II. 処置に関するもの

① 排尿困難、残尿量の増加

尿が出しづらい、尿の勢いが弱くなるなどの症状が出現することがあります。その結果、

尿を全部出しきれずに残尿量が増加してしまうことがあります。残尿量がある程度多くなってしまった場合は、改善がみられるまで一時的な尿道カテーテル留置や自己導尿が必要となることがあります。これらの合併症は一時的なもので、薬の効果が弱まるとともに回復することがほとんどです。

② 尿路感染症

細菌感染により尿の混濁、頻尿、排尿時痛、血尿などの症状がみられることがあります。

③ 遠隔筋への影響

非常に稀ですが、ボツリヌス毒素を投与した部位とは異なる部位に薬の効果が現れることがあります。治療後に呼吸が苦しくなった、食べ物が飲み込みにくくなった、体に力が入りにくくなったなどの症状が出現した場合は、すぐにお知らせください。

④ アレルギー

アレルギー性の副作用として皮膚の症状（発疹、痒みなど）、消化器症状（吐き気、腹痛など）、呼吸器症状（息苦しさ、声のかすれなど）がみられることがあります。

【治療効果について】

この薬の効果は2-3日で現れ、通常4-8ヵ月程度持続すると言われています（効果の程度や持続期間には個人差があります）。時間が経つにつれて徐々に効果が低下してくるため、その場合は投与を繰り返す必要があります。非常に稀ですが、繰り返し注射を行っていくと効果が弱くなっていくことがあります。

私はボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法について、下記の医師により説明を受け理解しましたので、その実施に同意します。

____年 ____月 ____日

患者氏名 (自署) _____ (印)

代理人 (自署) _____ (印) _____ (続柄)

説明者

大曲厚生医療センター 泌尿器科 医師署名 _____

____立会人署名_____